

各位

上場会社名 株式会社 カワタ  
 代表者 取締役社長 湯川 直人  
 (コード番号 6292)  
 問合せ先責任者 常務取締役執行役員管理部門統括 尾崎 彰  
 (TEL 06-6531-8211)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	4,500	△240	△255	△275
今回発表予想(B)	4,100	△510	△480	△770
増減額(B-A)	△400	△270	△225	△495
増減率(%)	△8.9	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	7,728	468	433	188

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	10,300	△160	△190	△240
今回発表予想(B)	8,800	△760	△710	△1,020
増減額(B-A)	△1,500	△600	△520	△780
増減率(%)	△14.6	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	13,361	428	373	123

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	2,850	△240	△220	△230
今回発表予想(B)	2,350	△360	△350	△600
増減額(B-A)	△500	△120	△130	△370
増減率(%)	△17.5	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	—	—	—	—

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	6,600	△220	△180	△200
今回発表予想(B)	5,200	△570	△550	△810
増減額(B-A)	△1,400	△350	△370	△610
増減率(%)	△21.2	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	7,961	△82	107	84

## 修正の理由

わが国経済は、在庫調整の一巡やエコ関連製品の需要増等により製造業の生産は回復基調であるものの、その水準は昨秋の金融・経済危機以前の7～8割に留まり、設備投資や雇用情勢は極めて厳しい状況が続いております。

通期の個別業績につきましては、前回予想時に年度半ば以降の受注・売上の回復を見込んでおりましたが、当社の想定以上にプラスチック成形関連の製造業の設備投資の回復が遅れていることにより、売上高は前回予想を1,400百万円下回る5,200百万円の見込みとなりました。損益面におきましても、引き続き原価低減や諸経費の削減を図ってまいりますが、売上高の減少に伴う売上総利益の減少、工場操業度の低下や価格競争の激化等による売上総利益率の悪化をカバーする

には至らず、570百万円の営業損失(前回予想比350百万円損失増)、550百万円の経常損失(前回予想比370百万円損失増)となる見込みです。更に、業績予想の修正に伴って繰延税金資産の回収可能性についても見直して、繰延税金資産205百万円の取崩しを行い、810百万円の当期純損失(前回予想比610百万円損失増)となる見込みです。また、第2四半期累計期間につきましても、通期予想と同様の理由に加えて、顧客都合による計画の中止および納入時期の10月以降への延期等もあり、売上高は前回予想を下回り、営業損失、経常損失、四半期純損失は前回予想より損失が増加する見込みです。

通期の連結業績につきましては、個別業績の未達成に加えて、設備のアフターメンテナンス・補修業務等にも一部手控えの動きが見られること、海外の日系企業を中心とした設備投資にも慎重な動きがみられること等により、売上高は前回予想を1,500百万円下回り8,800百万円の見込みとなりました。損益面におきましても、同様の理由により、760百万円の営業損失(前回予想比600百万円損失増)、710百万円の経常損失(前回予想比520百万円損失増)、1,020百万円の当期純損失(前回予想比780百万円損失増)となる見込みです。第2四半期累計期間につきましても、通期予想と同様の理由に加えて、顧客都合による計画の中止および納入時期の一部延期等もあり、売上高は前回予想を下回り、営業損失、経常損失、四半期純損失は前回予想より損失が増加する見込みです。

以上